

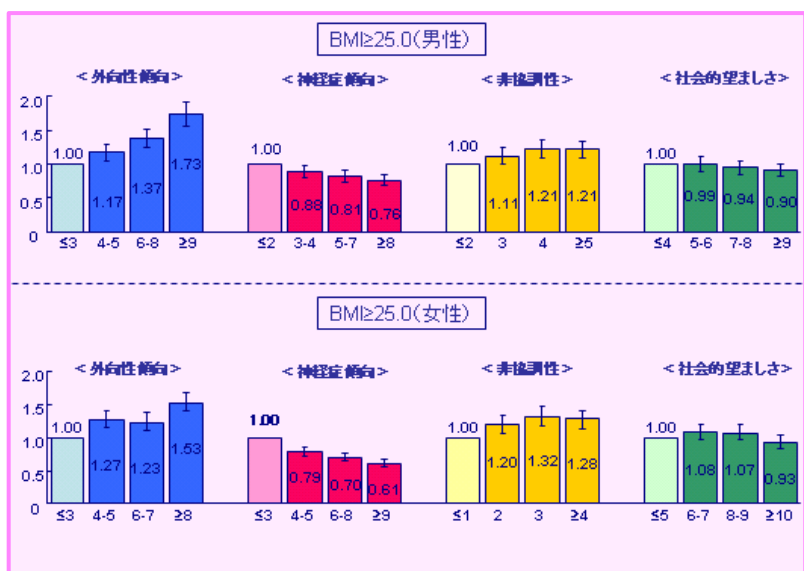
パーソナリティと BMI との関連：宮城県コホート

Personality and body mass index: A cross-sectional analysis from the Miyagi Cohort Study.
2008 年 Journal of Psychosomatic Research 発表

外向性傾向・非協調性が高い者ほど肥満者の割合が高く、神経症的傾向が強いほどやせの者の割合が高い

性格が肥満ややせと関連しているのではないかとされていますが、現在まで行われている研究の結果は一致しておりません。そこで、宮城県コホートのデータから、1975 年に英国の臨床心理学者アイゼンクにより開発された性格に関する検査によって測定された外向性、神経症的傾向、非協調性および社会的望ましさの 4 種類の性格傾向の強さを 4 つにグループ分けして、BMI25.0 以上の者(肥満者)、BMI18.5 未満の者(やせの者)のオッズ比を求めました。

男女とも、外向性傾向、非協調性が高い群で肥満者のオッズが上昇し、神経症的傾向が高い群で肥満者のオッズが減少しました。男性では社会的望ましさが高い群でのオッズが減少しました。また、男女とも外向性傾向が高い群でやせの者のオッズが減少し、神経症的傾向が高い群でやせの者のオッズが上昇しました。



研究データについて

解析には「宮城県コホート」と呼ばれている宮城県内の調査集団のデータが使われました。対象者には、病気の既往歴などの健康状態、運動習慣、喫煙、飲酒、婚姻状況、学歴、身長、体重などの生活習慣に関するアンケートの他に、性格に関わる調査を実施しました。肥満、やせの評価は、質問紙調査の身長・体重から算出した Body Mass Index (BMI=身長(m)/体重(kg)²) によりました。

生活習慣に関わる調査と性格に関する調査に回答いただいた 4 万 1424 人のうち、EPQ-R の回答に欠損がある者、EPQ-R の回答の全てを「はい」または「いいえ」とした者、身長・体重の回答に欠損がある者、がん・心疾患・脳卒中の既往がある者を除外した 3 万 722 人を解析対象としました。

性格に関する調査について

性格の調査は Eysenck Personality Questionnaire Revised (EPQ-R) を用いています。EPQ-R は、48 項目からなり、「はい」「いいえ」で回答するものです。「外向性傾向(extraversion)」「神経症的傾向(neuroticism)」「非協調性(psychoticism)」「社会的望ましさ(lie)」の 4 つの下位尺度で構成され、各下位尺度は 0-12 点の範囲でスコア化されます。EPQ-R の信頼性及び妥当性はすでに確認されています。

他のリスク要因の影響について

この研究では、肥満、やせに関連すると考えられている、性格以外の関連要因の影響を考慮して、結果を算出しています。具体的には、年齢、教育歴、婚姻状況、疾患既往歴、喫煙、飲酒、歩行時間、運動時間、職業について、グループ間に偏りがないように、統計学的な処理を行いました。

研究の特徴と限界について

本研究の長所としては、(1) 30722 名という大規模な集団を対象として行った研究であること、(2) 年齢、教育歴、婚姻状況、疾患既往歴、飲酒、喫煙、歩行時間、身体活動時間、仕事といった性格以外の関連要因の影響を考慮して結果を算出している点、(3) EPQ-R の日本語版という信頼性・妥当性がすでに確認された性格検査を用いている点が上げられます。

一方限界としては、(1) 横断研究であるため、性格と肥満・やせに関して時間的な因果関係が不明である点、(2) 自己回答による身長・体重を解析に使用している点、(3) 対象集団の年齢が 40 才以上に限られているため、成長期の若年層などでは関連が異なる可能性があります。
